

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月 1 日
平成 28 年 10 月号

ちばアクアラインマラソン 2016 での 県産農林畜水産物の PR について

流通販売課 販売・輸出促進室
技師 後藤 真紗子

10 月 23 日に開催される「ちばアクアラインマラソン 2016」による集客力を活用し、千葉の豊富な農林畜水産物を県民や観光客へ PR するため、大会当日及び大会前にプロモーションを実施します。

1 大会概要

今大会は 3 回目で、以下のとおり開催されます。
期日：平成 28 年 10 月 23 日（日）
種目：フルマラソン（12,000 名）
ハーフマラソン（車いす含む）（5,000 名）

2 エントリー者を対象に千葉の味をプレゼント！

大会のエントリー者へ、栄養豊富で新鮮な千葉県の農林畜水産物を広く知ってもらうため、抽選で千葉県産の農産品や食肉加工品、水産加工品等の詰め合わせを 400 名様にプレゼントする企画を実施しました。一足早くエントリー者に千葉の魅力を感じていただく狙いです。



写真はイメージです

3 開催 3 カ月前イベントでの県産品 PR

7 月 23 日（土）には、大会の開催機運を盛り上げるため、アクアライン横断道路 PA 海ほたるで『開催まで 3 カ月！「ちばアクアラインマラソン 2016」応援フェスタ！』が開催されました。

フェスタでは、アクアラインを利用する観光客に向けて県産ミニトマトの試食、千葉の農水産物に関するクイズに答えて鯉節「房州産花かつお」（千葉ブランド水産物認定品）をプレゼントする企画、各市や関係機関のリーフレットの紹介等を行いました。来場した観光客からは、「クイズで千葉の水産物の知識が深まった」「千葉を旅するときに畑にも注目したい」という声が聞かれました。



「千葉のおさかな O×クイズ」の様子

4 大会当日にランナーへのおもてなし

大会当日には、ランナーへ県産品を活用したおもてなしを予定しています。

① 特産品おもてなしスポット

（フルマラソン沿道 36 km 地点）

フルマラソンの沿道には、ランナー向けのおもてなしとして、千葉県産のきゅうり、ミニトマト、梨、梨ウォーターを提供し、走りながら千葉の魅力を楽しんでいただく予定です。同スポットでは他にも千葉県ならではの特産品（土産物品）が並ぶ予定です。

② ハーフマラソンフィニッシュ地点おもてなしスペース

ハーフフィニッシュ地点では、フィニッシュ後のランナーへのサービスとして、千葉県産米と千葉県産海苔を使用したおにぎり、チバザポークを使用したソーセージを提供予定です。

③ 「ちばの直売所フェア 2016」の PR

メイン会場のイベントスペースでは当課ブースにおいて「ちばの直売所フェア 2016」PR と千葉県産ミニトマトの配布を行う予定です。

県産農林畜水産物の PR を通じて大会を盛り上げてまいります。

野菜ニュース



リン酸が蓄積した砂質土のハウストマト栽培ではリン酸減肥が可能

千葉県農林総合研究センター
土壌環境研究室 研究員 塚本 崇志

九十九里低地等に広がる砂質土の野菜施設では、土壌に可給態リン酸*が過剰に蓄積しています。土壌の健全化及び施肥コスト削減を図るために、ハウストマト栽培において 4 作続けてリン酸無施用で栽培したところ、トマトの収量が減少せず、土壌の可給態リン酸が減少しました。

*可給態リン酸とは 土壌に含まれるリン酸のうち、作物が吸収利用可能なもの

1 はじめに

全国的にリン酸の土壌蓄積が問題となっ
ています。千葉県においても、特に九十九里低地等に広がる砂質土の野菜施設において可給態リン酸含量が高いことが明らかになっています。そこで、土壌の健全化と施肥コスト削減を目的に、土壌に蓄積したリン酸を有効活用してリン酸を減肥する試験を行ったので紹介します。

2 栽培概要

可給態リン酸の診断基準値 100mg/100g を超えた 127mg/100g の砂質土を、黒ボク土のハウスに 60cm 上乘せ客土して試験を行いました。トマトは、2012 年 11 月 21 日～2013 年 6 月 21 日(穂木:ハウス桃太郎、台木:ドクターK、以下 1 作目半促成)、8 月 5 日～11 月 8 日(ハウス桃太郎、以下 2 作目抑制)、11 月 28 日～2014 年 6 月 11 日(穂木:ハウス桃太郎、台木:ドクターK、以下 3 作目半促成)、8 月 5 日～12 月 11 日(桃太郎グランデ、以下 4 作目抑制)の 4 作栽培しました。試験区は、リン酸の基肥及び追肥が施肥基準量(半促成:基肥 26kg/10a、追肥 8kg/10a、抑制:基肥 15kg/10a、追肥 3kg/10a)の区(100-100 区)、基肥のみ基準の半量の区(50-100 区)、基肥のみ無施用の区(0-100 区)、基肥及び追肥を無施用の区(0-0 区)としました。いずれの試験区も窒素及び加里は基準量とし、堆肥は施用しませんでした。

3 トマトの収量

総収量は半促成栽培が 10.9～13.4t/10a、抑制栽培が 3.7～6.5t/10a となり、リン酸無施用で 4 作続けて栽培した 0-0 区でも減収しませんでした(図 1)。生育、可販収量及び糖度についても、同様にいずれの作においても減少しませんでした(データ省略)。

4 土壌の可給態リン酸含量の変化

深さ 0～10cm の土壌において、3 作目半促成栽培後までは試験区間に有意差はなく、リン酸を減肥した影響は認められませんでした(データ省略)。4 作目抑制栽培後では、0-100 区及び 0-0 区がそれぞれ 63mg/100g 及び 66mg/100g となり、100-100 区の 91mg/100g に比べて有意に少なくなりました(図 2)。リン酸を基肥無施用、あるいは基肥、追

肥共に無施用でトマト栽培を 4 作続けることにより、可給態リン酸が減少しました。

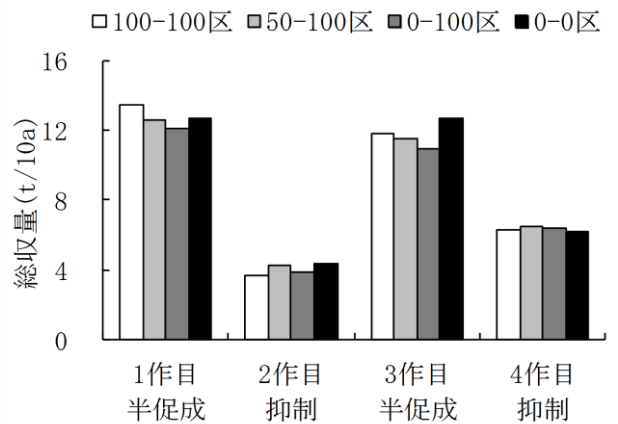


図 1 トマトの総収量

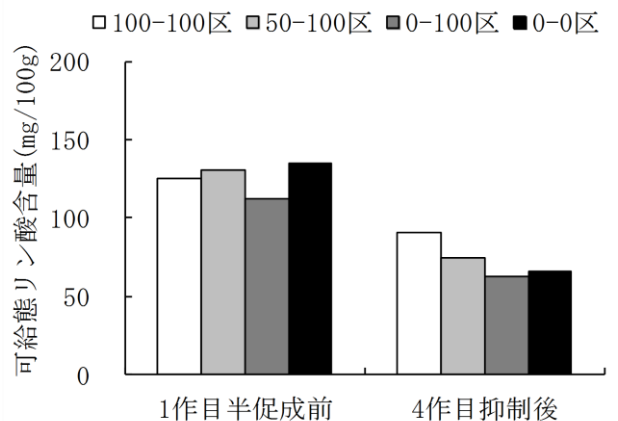


図 2 深さ 0-10cm の可給態リン酸含量

5 おわりに

土壌の可給態リン酸が診断基準値を超える砂質土では、リン酸無施肥でトマトを 4 作続けて栽培しても、総収量及び可販収量は低下せず、生育に悪影響はありませんでした。そして 4 作後には、深さ 0～10cm の可給態リン酸は、施肥基準量のリン酸を施用した場合に比べて無施用区で減少しました。生育・収量を落とさずにリン酸を減肥することは、肥料コストの低減だけでなく、土壌を健全に保つために重要です。ただし、リン酸減肥が減収を招かないように、土壌分析を行い、その結果に基づいて減肥の可能性を判断する必要があります。

頑張る産地



環境制御技術を駆使してトマト栽培

大多喜町 高糖度トマト栽培 小高一哲氏

夷隅農業事務所 改良普及課
普及指導員 江澤 和哉

大多喜町でトマト栽培に取り組む小高一哲さん。特殊な養液栽培システムや環境制御技術の導入によって高品質なトマト生産に取り組む事例を紹介します。

1 経営の概要

小高一哲さんは、平成 25 年に高糖度トマト栽培を開始しました。栽培面積は約 23a で、家族と雇用労力で経営しています。作型は、8 月に定植し、10 月から翌年 7 月まで収穫する越冬長段どり栽培で、直売所やスーパー等を中心に出荷しています。

2 「アイメック栽培」について

高糖度トマトを作るに当たり、メビオール株式会社製の特殊なフィルムを使った少量培地の養液栽培システム「アイメック」を導入しました。この栽培では、少ないかん水量で適度な水ストレスを与えることにより果実が凝縮されます。小高さんは中玉トマト品種である「フルティカ」をミニトマトサイズまで凝縮し、高糖度で味の濃いトマトを生産しています。



小高さん自慢のフルーツトマト

3 環境制御の取組

小高さんは、生育に最適なハウス内環境を作り出す技術として施設園芸分野で普及が進ん

でいる環境制御技術の導入にも積極的です。平成 27 年にネポン株式会社製の CO₂ 施用機「グロウエア」、ハウス内環境モニタリング機器「アグリネット」、複合環境制御盤「MC-6000」を導入し、ハウス内の温度、湿度、CO₂ 濃度などの環境測定データを基にした栽培管理を開始しました。

水ストレスで糖度を高める栽培方法では、どうしても収量性を犠牲にしてしまっていますが、小高さんは環境制御でトマトの光合成量を高めることで現状の糖度を維持しつつ収量向上を目指しています。そのためには、かん水量の調節が重要と考えており、測定データやトマトの草勢を眺めながら自分の栽培に適した環境制御について日々試行錯誤を繰り返しています。

4 今後について

ハウスの増設を検討しており、経営改善に向けて意欲的に取り組んでいます。県の農業士としても活躍しており、地域のモデル農家として今後の活躍が期待されます。



ハウス内の様子

頑張る産地



次世代トマト生産に挑む C F F

農事組合法人長生フロンティアファーム
代表理事 石井 理永蔵

青年農業者 5 名で組織する（農）長生フロンティアファーム（C F F）は大規模次世代型温室で高度な環境制御による高品質高収量なトマト生産を開始しました。



環境制御技術の改善によって長生地域でトップレベルの成績となり、規模拡大意欲が更に高まり、「一緒に規模拡大をしてみないか」と仲間を募りました。

3 有志 5 名で農事組合法人 CFF の設立へ！

平成 27 年 CFF を設立し 28 年 3 月に 5 棟の施設が完成しました。栽培管理の改善で取り組んできた目標収量の実現に向け、収量構成要素（①栽植本数②着果数③収穫段数④果実の大きさ⑤ロス率など）の数値を高めるため、生産環境の制御で最適化して生産します。導入した施設は、下記のとおりで今考えられるフルスペックの仕様になっています。

1 ながいきトマトのこれから

「長生トマト」は、九十九里浜最南端の 3 町村（一宮町、長生村、白子町）で生産され JA グリーンウェーブ長生から首都圏の消費者のみなさんに届けられています。

産地では、生産者の高齢化、担い手不足から生産量は平成 12 年をピークに平成 22 年には 93 万ケースまで落ち込み、意向調査では今後の 10 年間で栽培面積は 20%、生産者は 30%減少してしまうことが懸念されました。

トマト産地として市場から広く認知され評価を受けるには、100 万ケースの安定的出荷が必要であり、それを割り込むことは、「産地評価の低下」や大型集選果場の利用率低下による「選果料金の値上げ」を考えなければなりません。また、産地の衰退が個人の経営に影響することから、産地のあるべき姿「年間出荷量 100 万ケースの確保」をスローガンに課題の解決に取り組みました。

2 全国の先進的トマト産地から刺激

「長生トマトの今後を考える会」を JA 長生、農業事務所、関係機関で組織し、産地や個人の現状分析、産地の将来予測を行い、個々の生産者が将来の産地の在り方、個人の経営について真剣に考え、思いを伝え合い、【単収増加】と【規模拡大】に重点的に取り組むこととなりました。

青年部活動では最先端の技術や優良事例の取組を実践する視察研修会を毎年実施しています。最先端の栽培を行っている愛知県 JA 豊橋青年部との交流からは、自分たちが遅れていると危機感を感じました。

まず、我が家の経営規模を 2,000 m²拡大し単収増加に取り組んだ結果を青年部勉強会で報告しました。

項目	内容
活用事業	強い農業づくり交付金
総事業費	約 5.3 億円（国庫補助金 1 / 2）
面積	低コスト耐候性ハウス 1.61ha
栽培方式	周年長期ロックウール栽培，ハイワイヤー誘引，4.5m 軒高
環境制御装置	暖房機，CO2 発生機，ヒートポンプ，循環扇，細霧冷房，統合環境制御装置

4 将来目標について

目標収量は 10a 当たり 35 t。将来的には年間 40t 穫りを目指します。

そのために当組合では生育調査や、給排液の pH や EC、給液時間など栽培記録を徹底するとともに、週 1 回の定例会を開催してメンバー間の情報共有や改善のための協議を重ねています。



資材メーカーや関係機関との連携によりアイデアを生かしたオリジナル資材開発や施設改良にも取り組んでいます。

雇用管理関係では作業マニュアルはパートの方に分かりやすい内容で作成し作業者のスキルアップにつなげていきます。

今後は担い手の中核となって研修生の受入れや産地発展に関係機関と生産者が一体となったチームとして尽力していきたいです。

いちご新品種の愛称決定

流通販売課 農業ビジネス推進班

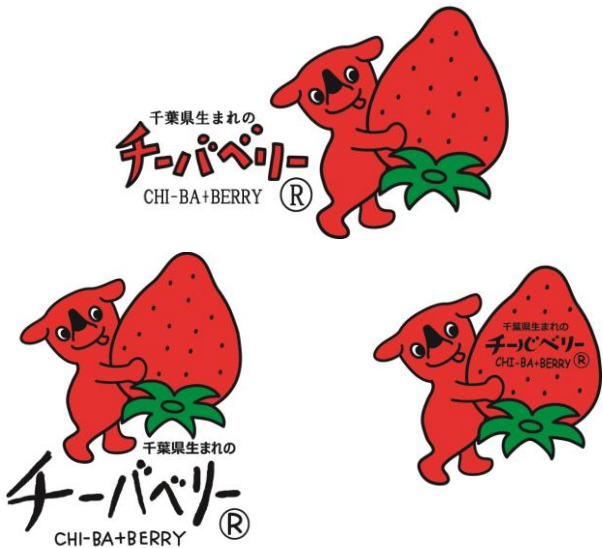
県育成いちご新品種「千葉S4号」の愛称が、「チーバベリー」に決まりました。県内の観光いちご園や成田空港などで実施した人気投票の結果、圧倒的な人気で第1位となりました。

1 愛称について

- (1) 愛称 「チーバベリー」
- (2) 愛称の理由、込められた思い
 - ・千葉県生まれのいちごであることが、すぐに分かってもらえること
 - ・千葉県を代表するいちごとして、末永く親しんでいただけるように
 - ・名前の響きや赤い色などが千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」と共通していることから

2 専用ロゴマーク

「チーバくん」をイメージキャラクターとして活用することとし、専用のロゴマークを作成しました。使用ルールなどについては、今後お知らせします。



専用ロゴマーク（使用例）

3 今後の販売とPRについて

「チーバベリー」は、いちご狩りや直売を中心に、平成 29 年 1 月からの販売開始を予定しています。県内外から多くの観光客が来訪していただけるよう、シーズン開始の際には、「お披露目式」をはじめ、県内外での各種イベントなどで、積極的にPRをまいります。

「千葉なし味自慢コンテスト」 (豊水) 開催結果

全国一の千葉の梨～ナンバーワン決定！

生産振興課 園芸振興室

9月3日(土)～4日(日)、習志野市のイオン津田沼店において「千葉なし味自慢コンテスト」を開催しました。今回は県内の21団体から「豊水」108点の出品がありました。

初日の専門家による品質審査に加え、2日目は「あなたが選ぶ千葉なしナンバーワン！」と題し、一般消費者50名が食べ比べて、上位3賞を決定しました。

コンテスト期間中は、試食宣伝を行い、「豊水」の味を消費者に知ってもらう機会となりました。

上位3賞について

賞名	所属組合名	氏名(敬称略)
農林水産大臣賞	印西果樹園芸組合	湯浅静夫
千葉県知事賞	印西果樹園芸組合	飯島克久
農林水産省 生産局長賞	白井市梨業組合	白井中央 梨選果場組合A



上位3賞に輝いた出品物の展示



専門家による品質審査



消費者の食べ比べによる
千葉なしナンバーワンの決定

「食のちばの逸品を発掘 2017」出品者募集！

千葉県とちばの「食」産業連絡協議会では、埋もれたちばの逸品を発掘し、それをPRすることで地域の農林水産業及び食品産業の活性化に役立てようと、毎年コンテストを開催しています。

今年も 10 月 1 日から募集を開始し（11 月 2 日午後 4 時 30 分必着〆切）一般審査、専門家審査を経て金、銀、銅の各賞を決定し表彰します。

今年は「一般部門（全国的な販売を目指した商品部門）」「直売所部門（地域での販売を主とした商品部門）」の 2 部門で実施します。

「良い物が出来たので」や「新しい商品を開発したので」など、また「商品の評価が知りたい」など受賞を目指さなくても、応募可能です。

多くの皆様の御応募をお待ちしております。

【お問い合わせ】

流通販売課 販売・輸出促進室

電話 043-223-3085

食のちばの逸品を発掘2017 参加商品を募集します！



埋もれたちばの逸品を発掘するため、本コンテストを開催します。
①千葉県産の食材・加工品を主原料とした加工品が対象となります。
②賞状を授与します。
③上位入賞者は千葉県がPRサポートを行います。

千葉県内に事務所や工場がある方が、ご参加いただけます

千葉県産農林水産物を主原料にした加工品が対象となります

平成28年11月2日
午後4:30必着！
※詳しくは裏面をご覧ください。

主催：千葉県、ちばの「食」産業連絡協議会
千葉県農林水産部流通販売課
（千葉県千葉市中央区市場町1-1）
☎ 043-223-3085（9:00～17:00 土日祝日は除く）

※千葉県庁のホームページから応募用紙をダウンロードして、メールで応募！



千葉県植木まつり(第44回千葉県植木共進会)

本県が世界に誇る植木の品評会が開催されます。

卓越した樹芸技術で仕立てられた植木を御覧ください。

日時：平成 28 年 10 月 29 日（土）

～30 日（日）

会場：(株) 八日市場植木センター

(匝瑳市平木 3 9 1 6)

内容（予定）

- ・品評会出品物の即売会
- ・庭木に関する相談コーナー
- ・苗木のプレゼント

【お問い合わせ】

生産振興課 園芸振興室

電話 043-223-2871



前回農林水産大臣賞受賞の黒松